



# ☆ 羅針盤 No.128

発行: サイクルズ株式会社  
(旧名 東港金属グループ)  
編集: 東港金属株式会社  
東京都大田区京浜島2-14  
電話 03-3790-1751  
URL <https://www.tokometal.co.jp/>  
(見学受付)  
電話03-3790-1751 又は 各営業担当

\*11月です。酷暑、猛暑の夏時には、もしかしたらこの暑さが終わらないのではと恐怖を感じるほどでしたが、秋彼岸を境に涼風が立ちました。本当に四季の有る国、日本は素晴らしい環境です。今年は恐れていた台風も本島に上陸したものは無く、お米や果物の収穫は、味も量も良い出来になっているようです。秋の味覚を満喫致しましょう。一方、go to travel, go to eat と、国が次々と経済政策を実施することにより、有名観光地には活況が戻ってきているようですが、ニュースでは三密が気になる場所も見受けられます。又、欧州では外出が禁止されるなど、油断できない状況の国が増えている中、日本では来年のオリンピック・パラリンピックに向け観客を増やすための対策研究も始まっています。クラスターを発生させないためには、個々人の意識が大切です。このところ寒さ、乾燥も加わりインフルエンザの脅威も増す季節に入り入りました。笑顔で新春を、そして待望のオリンピックを迎えることが出来るかどうか、これからの私やあなたの毎日の暮らし方にその責が問われます。ワクチン接種までなんとか頑張りましょう。  
\*東港金属グループは非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物処理を“いつでも”お受け致します。身近なりサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。



■ 柳葉明未

## ☆ 羅針盤 鉄・非鉄スクラップ・市況からの11月予測 営業部 Y の考察

- 鉄スクラップ** → 考察) 10月は指標となる東京製鉄宇都宮工場特級価格が26,000円/トンでスタート、宇都宮工場の価格は変わらず。11月に関しては、主要輸出先であるベトナムへの輸出価格の上昇、中国の国慶節明けの価格上昇で上がると考えられます。
- 銅** → 考察) 10月は中国の景気的好調からLME6,700ドル/トン、国内銅建値750,000円/トンでスタートしたものの、6日には730,000円/トン、12日は760,000円、15日は750,000円、21日は770,000円、27日は750,000円/トンと変動が多かった月となりました。11月に関しては、新型コロナウイルスの再拡大が世界経済へ影響し、また米国の大統領選で先行き相場は読みにくい状況ですが、30日のLMEが6,700ドル/トンの為、横ばいと思われる。
- アルミ** → 考察) 10月はLME1,870ドル/トン台でスタート。中国輸出増加を受け17か月ぶりに自動車やIT機器などに使用するアルミニウムの価格が上昇し、最終的にはLME1,800ドル/トンで落ち着きました。11月に関しては、トヨタ・ホンダの自動車生産が順調なことから需要は高まり、上がると思われます。
- プラスチック (産業廃棄物)** → 考察) 新型コロナウイルスの感染防止で在宅勤務が増え、オフィスからの廃棄物は相変わらず発生が少ない状況。中間処理場の搬入台数は戻りましたが、搬入量が戻らないという声が多い一方、事務所の縮小により不要になった事務所内事務什器や雑ごみの廃棄が増えています。しかしピークは止まるため、処分場の扱ひ量は下がって行くでしょう。少ない廃棄物をどれだけ分別して資源を取り出し品位をあげていくかが重要と思われます。

10月予測の自己評価

鉄スクラップ	×	アルミ	○
銅	×	プラスチック	-

## ☆ 羅針盤 「サイクルズ株式会社」発足

# 東港金属グループは “新たなステージ”へ

- We are moving on to the Next Phase -

サーキュラーエコノミーを実現するために

東港金属グループは持株会社  
サイクルズ株式会社を設立。

2020年9月1日



本誌126号(2020年9月1日発行)でご挨拶させていただきました通り、東港金属グループは、サイクルズ株式会社を持株会社としたサイクルズグループとして“サーキュラーエコノミーを実現する”新たなステージに挑戦して参ります。

サーキュラーエコノミーには、様々な再循環ループがあり、それらを実現させ、社会に認知されるようにするには、資源リサイクルのみならず、中古品、修理技術、IT、物流、処理技術、シェアリングなど多様な知見、ノウハウ、物理インフラ、人材等が必要となります。

“サーキュラーエコノミー”を志向する企業グループを目指して、全力で進んで参ります。何とぞ宜しく願い申し上げます。



## 「水底の花」(1) 営業部 柳葉明未

初めまして、「出身地は何県ですか？」と訊かれると「横浜！」と何故かずれた答えをしてしまう横浜生まれ・横浜育ち、営業部管理2課の柳葉と申します。普段は東京事務所で契約・書類管理と庶務系の仕事を担当しております。

入社直前は産業廃棄物の言葉は教科書やニュースで少し聞く程度、「マニフェストって何？政治家の声明文かな？」のレベルでした。入社前に「マニフェスト」で検索をしても、ネットの某百科事典では出てこないものから、不安ばかりが積み重なっておりました。そんな私でしたが、気づけば2017年9月に入社してもう3年となっております。時が過ぎるのは早いんですね。

さて、こうして文章を綴るのは学生時の夏休みの宿題以来です。読書感想文や、テーマにそった作文やらに「文字数が足りない！」と、悪戦苦闘した記憶しかありません。(※この際内容の良し悪しは考えてはいけませんが、あまり期待なさらず、ソフト煎餅みたいにサクサクと軽い気持ちで読んでいただくようお願いいたします。今のうちに全力でハードルを下げておきますね。

今回、4回に渡り羅針盤で私がお話させていただきますのは、「水底の花」についてです。なにいきなり詩的なことを言い始めてるんだと思われるかもしれませんが、もちろんこれはただの比喩です。水中に漂うひらひらして、細長かったり、丸かったり、紅かったり、白かったり、黒かったりします。なぜなら金魚です。私は飼ってはいませんが、雑貨屋で金魚柄の物を見るとなぜか吸い寄せられてしまいます。吸引力の変わらないただ一つの掃除機のようなパワーです。閑話休題。

皆さんは金魚にどんなイメージを抱かれますか？やはりパツと思いつくのは、夏祭りの出店で金魚すくいのイメージが強いでしょうか？大きな浅い水槽で紅い金魚が忙しくあちらこちらに泳ぎ回って、人間が水中に入れたボイ(金魚すくい)で使う円形のプラスチック枠に和紙をはった道具)から素早く逃げる。夏の季語にもなっていますので例え話としては間違いのないかと思ひます。他に種類にもよりますが、想像以上に成長する。友人の家で30センチに育った紅い魚を見たときはとても驚いた記憶

があります。1700年程前に中国で発見されたフナの変異種が大本らしいので、大きくなるのも当たり前とも言えますが、というわけで、この後「金魚」をテーマに、いくつかご紹介出来たらと思います。さあ、文字数に制限がありますので今回はこの辺で。次回からは好きなものを楽しみながらお話するだけです。あと三回頑張って「金魚」についてお話して参りますので、どうぞお付き合いくださいませ。



写真:金魚草